

5 SDGsの視点による将来の姿について

SDGs(※1)は、2030年に、「持続可能で多様性と包摂性(※2)のある社会の実現」を目指す国際社会共通の目標です。現在、多様な主体がSDGsに参画しており、その意義は以下のとおりと考えます。



SDGsの意義

企業・行政・NPO等の多様な主体との連携・協働する機会が得られることが期待

人口減少・高齢化など多くの課題を抱える自治体がこれを克服するための新たな切り口として活用

本県は、未曾有の複合災害に伴う広域的避難からの帰還環境整備や生活・生業の再生、福島イノベーション・コースト構想の推進、根強い風評との戦いなどの復興の取組と、急激な人口減少などの全国共通の課題への取組を同時に進める必要があります。これは持続可能な開発を目指すSDGsの方向性と一致しています。将来の姿の実現に向けては、その共通理解を図り、県内はもとより、本県に心を寄せる国内外のより多くの皆さんとの連携・協働をさらに進めることが不可欠です。

引き続き、国内外の福島に心を寄せる人々との連携・協働を深める

普遍的な課題に照らして県づくりの方向性を示す

国内外共通で理解が得られる表現、SDGsという世界の共通言語に照らして、本県の将来の姿を整理

他の地域よりも複雑な課題を抱える本県の目指すべき将来の姿の実現につながる

(イメージ図)

ふくしまの将来の姿
(「ひと」「暮らし」「しごと」と)SDGsの対応関係

(※1)SDGs:Sustainable Development Goalsの略称(エスディージーズ)

世界が抱える課題を解決し、誰一人取り残さない、多様性と包摂性のある持続可能な社会の実現のため、平成27(2015)年の国連サミットで決定した国際社会の共通目標。「貧困」「保健」「エネルギー」「気候変動」など17の目標と169のターゲットが示されており、国が定めた「持続可能な開発目標(SDGs)実施指針」(平成28(2016)年)において、地方自治体の各種計画にSDGsの要素を最大限反映することとされています。

(※2)「包摂性」:誰一人取り残さないという考え方のこと



■ SDGs視点の将来の姿



他の地域よりも複雑な課題を抱える福島県がどのような姿を目指すのか、福島に心を寄せる人々との連携・協働を深めながら、普遍的な課題に照らして県づくりの方向性を示すため、SDGsの17の目標ごとの視点で描きます。

10 人や国の不平等をなくそう

人や国の不平等をなくそう

- 年齢、性別、国籍、文化など様々な背景を持つ人々が互いに尊重し、自分らしく暮らしている

など

4 質の高い教育をみんなに

質の高い教育をみんなに

- 知識や技能のみならず、自ら考え課題解決できる子どもたちが育っている
- 震災の記憶の継承や復興への取組を基に、郷土への理解が進んでいる
- 生涯にわたって学び続けることができる環境が整っている

など

5 ジェンダー平等を実現しよう

ジェンダー平等を実現しよう

- 地域や企業等が一体となり、多様な子育てを支援する体制が構築されている
- あらゆる分野で女性の意思決定過程への参画が進み、女性活躍の場が広がっている

など

ひと

1 貧困をなくそう

貧困をなくそう

- 誰もが、医療、教育などの基礎的なサービスを楽しむことができる環境が整っている

など

11 住み続けられるまちづくりを

住み続けられるまちづくりを

- 各種都市機能の中心市街地への集積など歩いて暮らせるコンパクトなまちづくりが進んでいる
- 本県の魅力の発信や受入体制の整備により、本県への移住・定住の流れが確かなものとなっている
- 避難解除等区域における生活環境等の整備や居住人口の増加が進んでいる
- 過疎・中山間地域においても、医療や生活交通などの生活基盤が安定的に確保されている

など

3 すべての人に健康と福祉を

すべての人に健康と福祉を

- 若い世代から高齢者まで県民一人一人が心身ともに健康な生活を送っている
- 安心して妊娠・出産に臨むことができる環境が整備されている
- 安心して必要な医療を受けられる体制が充実し、医療の質も向上している
- 高齢者や障がい者など利用者の意向を十分に尊重した良質かつ適切な介護・福祉サービスが充実している
- 各種感染症に迅速かつ的確に対応できる体制が整っている

など

15 陸の豊かさも守ろう

陸の豊かさも守ろう

- 豊かな自然環境が保全されている
- 希少な動植物の保護など生物多様性が保全されている

など

16 平和と公正をすべての人に

平和と公正をすべての人に


- 安全・安心で、差別や虐待のない人権に配慮した社会づくりが進んでいる

など

暮らし

しごと

2 飢餓をゼロに




飢餓をゼロに

- 産地の生産力が向上し、生活に不可欠な食料を安定的に供給している

など

7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに




エネルギーをみんなにそしてクリーンに

- 再生可能エネルギー関連産業の育成・集積が進み、一大産業集積地となっている
- 水素エネルギーの社会実証が進み、国内外の最先端モデルとなっている

など

14 海の豊かさを守ろう




海の豊かさを守ろう

- 水産資源を安定的に利用できる仕組みが確立され、活力ある水産業が営まれている

など

8 働きがいも経済成長も




働きがいも経済成長も

- 本県経済の中核を担う県内の中小企業などが主役となった力強い地域産業が成長・発展している
- 福島イノベーション・コースト構想の進展などにより地域外からの人材が還流・定着している
- 農林漁業者が他産業並の所得を安定的に確保している
- 県内観光地の魅力が高まり、インバウンドを含めた観光や教育旅行など地域を訪れる交流人口等が増加している
- 若者、女性、高齢者など誰もが安心して働ける雇用環境が整備されている

など

13 気候変動に具体的な対策を




気候変動に具体的な対策を

- 災害に強いライフラインやインフラの整備が進んでいる
- 防災に関する意識が高まり、自助・共助・公助による災害の備えが進んでいる
- 地球温暖化対策に県民一人一人が積極的に取り組んでいる

など

17 パートナーシップで目標を達成しよう




パートナーシップで目標を達成しよう

- 住民、企業、NPO法人や行政が連携し、住民主役のまちづくりが行われている
- 市町村とともに、効率的・効果的な行政サービスが行われている

など



9 産業と技術革新の基盤をつくろう




産業と技術革新の基盤をつくろう

- 県産品・観光の魅力や正確な情報の発信により産地評価の回復、競争力の強化が進んでいる
- 福島イノベーション・コースト構想が進展し、地域企業の活力向上と新産業の集積・育成が進んでいる
- 利便性が高い道路ネットワークが確保されるとともに、条件不利地域でも携帯電話等が利用できる
- 福島空港、相馬港や小名浜港は、物流拠点・交流拠点として地域経済の活性化に寄与している

など

12 つくる責任 つかう責任




つくる責任 つかう責任

- GAP等認証の活用などにより、持続可能な農業生産が進み、県産農産物の信頼性が確保されている
- ごみの減量化やリサイクルなど環境に配慮したライフスタイルが定着している

など

6 安全な水とトイレを世界中に



安全な水とトイレを世界中に

- 猪苗代湖を始めとする水環境が保全されている

など

